

平成 28 年度 決算 の 状 況

平成 28 年は、中国をはじめとする新興国経済に陰りが見え、世界経済の先行きに関する不透明感が高まっている状況の中、英国のEU離脱交渉やトランプ米国大統領就任など大きな変革が起きました。国内においても、熊本地震や史上2番目に多い台風上陸など天災地変が経済に与えた影響が大きい年でした。

国は、デフレから完全に脱却し日本経済が成長するために、「未来への投資を実現する経済対策」を取りまとめ、一億総活躍社会の実現の加速や21世紀型のインフラ整備などの施策を強化しました。こうした状況下において、我が国の景況は雇用・所得環境の改善が続く中、経済対策等の効果もあって緩やかな回復基調が続いています。

各自治体での地方創生が本格化する中、本市においてはこれまでも国の動きに先駆け、旗管理方式によりPDCAサイクルでの政策の実行・検証に取り組んできましたが、NEXT10年ビジョンが示す「新たなライフスタイルへの変革」と「まちのブランド力向上」をめざし、人口減少社会の課題に対応するこまつ創生総合戦略を推進してきました。

4月に、本市の『『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～』が日本遺産に認定され、10月には、こまつの杜、サイエンスヒルズこまつを含む小松駅周辺整備事業が、「2016 アジア都市景観賞」を受賞しました。今後も、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2023年の北陸新幹線小松開業などの大きな節目をチャンスと捉え、日本一「おもしろい・たくましい・ここちよい」まち、「はつらつ」と躍動するひととまちづくりのレベルが一段と高まることをめざします。

全国上位の住みよさランキングや全国トップクラスの高い評価をいただいている出産・子育てしやすいまちにさらに磨きをかけるため、特に子育て家庭の経済的な負担軽減に努めるとともに、心身障がい者医療費制度の拡充など、すべての人にやさしいまちづくりへの取り組み、教育は最大の公共投資として、小中学校におけるICT教

育環境の整備など、くらしの充実やまちの発展に向けスピードをあげて政策を展開しました。

歳入歳出性質別決算を前年度と比較すると、歳入では、給与所得の増加による個人住民税の増額や、住宅需要の増加等により固定資産税が増額となったものの、地方法人税導入と合わせた法人税割率の引下げの影響等により法人市民税は減額となり、市税全体として2.4%（約3.9億円）の減額となりました。北陸新幹線建設事業に係る補償金等による諸収入の増額や、（仮称）エコロジーパークこまつ・クリーンセンターの建設開始による国庫支出金や地方債の増額などもあり、歳入全体としては2.6%（約11.1億円）の増額となりました。

歳出においては、認定こども園への移行やこども医療費窓口無料化の通年化等により扶助費が8.1%（約7.1億円）の増額、（仮称）エコロジーパークこまつ・クリーンセンターの建設開始、せせらぎの郷リニューアル等により普通建設事業費が9.2%（約5.4億円）の増額となりました。また、後年度市債償還のための減債基金積立て等により積立金が87.6%（約2.1億円）の増額となり、歳出全体では3.3%（約13.6億）の増額となりました。

なお、各会計の決算状況は次のとおりです。

1. 一般会計

予算額44,567,768千円の内1,223,335千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入43,257,868千円、歳出42,668,703千円で、繰越財源41,174千円を除いた実質収支額は547,991千円の黒字決算となり、その内280,000千円を基金へ積立て、実質繰越額は267,991千円となりました。

2. 特別会計

(1) 国民健康保険事業

予算額 12,344,672 千円に対し、決算額は、歳入 12,396,591 千円、歳出 12,260,742 千円で、実質収支額は 135,849 千円の黒字決算となり、その内 38,000 千円を基金へ積立て、実質繰越額は 97,849 千円となりました。

(2) 簡易水道事業

予算額 36,200 千円に対し、決算額は、歳入 35,461 千円、歳出 26,486 千円で、実質収支額は 8,975 千円の黒字決算となりました。

(3) 農業集落排水事業

予算額 737,700 千円の内 111,525 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入 544,872 千円、歳出 459,288 千円で、実質収支額は 85,584 千円の黒字決算となりました。

(4) 介護保険事業

予算額 9,617,191 千円に対し、決算額は、歳入 9,670,146 千円、歳出 9,445,498 千円で、実質収支額は 224,648 千円の黒字決算となり、その内 87,906 千円を基金へ積立て、実質繰越額は 136,742 千円となりました。

(5) 公債管理

予算額 8,716,000 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 8,662,922 千円となりました。

(6) 工業団地造成事業

予算額 904,800 千円の内 642,400 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入歳出とも 237,590 千円となりました。

(7) 後期高齢者医療

予算額 1,317,246 千円に対し、決算額は、歳入 1,302,659 千円、歳出 1,299,462 千円で、実質収支額は 3,197 千円の黒字決算となりました。